

加藤委員長挨拶

今日は大変お忙しいところをご参加いただきましてありがとうございます。今週の全道総会前に大事な案件について事前にご承諾をいただきたい思い、検討・準備してまいりました。

〔報告〕

その前に二つのご報告です。4月26日に函館地区が渡島地区、檜山地区も含めた形で南北海道地区としての設立となり、新たな一歩を始めました。

2つ目は、6月下旬に行われる学会山形大会に旭川地区から入江先生（高台小）・菊池先生（附属小）、小原先生（高台小）、河田先生（大有小）の4名が自由県k乳発表されることです。旭川地区の勢いを生かす形でオホーツク地区は全道夏季研修会を企画し、釧路地区は釧路大会を準備いただいています。多くの先生方の熱い思いがこもった全道大会になりますので、各地区的先生方の応援をお願いします。

〔承諾事項〕

一つは、全道研究大会や全道夏季研修会に関する、中長期的な見通しです。今日の段階で立候補地区がいくつかあり、内定という形で決め、総会に提案したいと思っています。

二つ目は、令和19年度の全国協議会の全国大会への立候補についての意思確認です。昨年東京で行われ全国理事会に参加した際、目の前で京都府、高知県、大阪府の3地区が立候補して、3年分の全国大会の開催地が決定したこともあり、全国大会開催地が決まるペースが早まっていることを踏まえた提案です。

三つ目は、地区加盟費の見直しです。各地区的会員数の状況等を踏まえ、各地区的負担額を抑えたいと考えています。

四つ目は、連盟会計の中で大きな支出となっている備蓄会計の運用についてです。本来、学会と連盟のつながりをつけるために令和2年度に開催した学会北海道大会（札幌）を目標にして運用してきましたが、学会北海道大会（旭川）への運用を一つのゴールとして備蓄会計の運用を見直したいと思っています。

五つ目は、全道冬季研修会の発展的見直しについてです。具体案はこれからですが、私たちのネットワーク、特にオンラインを活用（いつでもどこでも研修できるというよさ）していけないかを、道の研究部、各地区的研究部の先生方にお知恵をいただきて、新しい企画を発展的見直しで考えていきたいと思っています。

このように、5年後、10年後の連盟の形を想像しながら道筋をつけていくのが今の私たちの役割かなと思っています。特に、現在の研究をリードしている先生方が、5年後、10年後に各地区やこの道連盟自体をリードする立場で活躍すると確信しておりますので、ぜひ道筋をつけたいというのが私の願いですので、ご協力をお願いします。

また、名簿にあるように、事務局の構成を手厚くしています。5年後、10年後の連盟組織をリードする人材を育てるという組織運営を実現するためには、校長職の皆さん方にぜひ汗をかいてもらおうと思っています。特に、教頭職や教務主任の先生方は、今大変な時代です。私のように校長職が汗をかいて連盟を動かしていかなければならぬんじゃないかなと考えています。どうぞよろしくお願ひいたします。